

エンパワーするNGO



特集：わいわい亭

～地域の高齢者が会食を楽しむグループ



ちいきにひろがれ ふくしのわ

わいわい通信

Vol.12

2008.9

神戸 YWCA 地域活動委員会ニュースレター



も く じ

組織図・ボランティア募集	3
特集 わいわい亭～地域の高齢者が会食を楽しむグループ	4
わいわい亭の一日	4
わいわい亭の常連さん紹介	6
地域の高齢者ととともに過ごす活動に参加して	8
コラム わいわい亭の成り立ちについて	12
各グループ活動紹介「活動近況と参加者雑感」	14
あの人に会いたい！ 松本光代さん	18
おしらせ	20



はじめに

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、神戸YWCAでは9つのボランティアグループが生まれました。神戸YWCA地域活動委員会は、それらのグループの横の連携を深め、神戸YWCAの考える地域福祉～ひとりひとりが存在そのものを大切にされる地域社会作り～を実現するために活動しています。

各グループの活動について会員内で情報を共有し協力しあうだけでなく、神戸YWCAにつながるボランティア同士の交流、内外への各活動の情報の発信などもおこなっています。

組 織 図 ・ 活 動 紹 介

一緒に活動してくださる方を大募集しています!!!

グループ名	活動紹介・ひとこと	活動日
高齢者のサポート		
わいわいランチ	一人暮らしの高齢者世帯に手作りのお弁当をお届けしています。盛りつけや配達など得意なところで力を発揮してください。	毎週月 ～金曜日 9:30～
わいわい亭	高齢者の方対象の会食サービスです。食事の準備や話し相手など、皆さんと楽しいひとときを過ごしてください。	毎週水曜日 10:30～ 14:00
わいわいデイルーム	食べて語って歌って手を動かします。お話やゲーム、手芸など、楽しく活動しています。	毎週火曜日 11:00～ 15:00
弓の木 歌の集い	灘区弓ノ木南市営住宅の高齢者による歌の集い。	毎月1回 第3水曜日
子どもと家族のサポート		
そらとぶうさぎ	しょうがいをもつ子どもと家族のためのフリースペース。みんなで遊んだり、お出かけしたりしています。ぜひ一度きてみませんか？	毎月1回 土曜日
子育て支援プロジェクト	子育て中のお母さん、お父さんそしてその子どもを社会のみんなで支援していきます。	
ちやいやあらんど	子どもと家族のためのフリースペース。つくろう会や音楽セッションもあります。ぜひ参加してください。	毎週木曜日 11:00～ 15:30
野宿している人の支援		
夜回り準備会	野宿している人の支援。灘区・東灘区で野宿している人を訪問してお話をうかがっています。参加してみませんか？	第2・第4 土曜日 18:00～

YWCA (Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。1855 年英国で始まり、今では日本を含み 120 あまりの国と地域で、約 2500 万人の女性たちが活動しています。

特集・地域の高齢者が会食を楽しむグループ

わいわい亭の一日

「わいわい亭」は、神戸 YWCA が行っている高齢者向けの昼食会です。お一人暮らしの高齢者などにご利用いただいています。場所は神戸市中央区坂口通にある YWCA 分室。毎週水曜日、お弁当を用意し、みなさんがいらっしゃったら少しおしゃべりなどをしてくつろいでいただき、それからお食事を一緒にいただきます。歌を歌ったり小物を手作りする事もあります。毎回 10 数名の方を受け入れています。この「わいわい亭」の 1 日の活動の様子をご紹介します。

文・イラスト：鈴木孝子(わいわい亭ボランティア)

待合室で…

■ 10:30 待合室の準備

イスを 2 階から下ろしてきて並べ、室温調節。メニューを書き、おつりも用意します。のれんをかけ、「わいわい亭」

OPEN!

■ 11:00～ 参加者を迎える

一人、二人、参加者が来られます。皆、思い思いに身だしなみを整え、笑顔を見せていただきます。お話を伺いながら、参加費をいただいたりお茶をお出ししたりします(夏は冷茶)。



食堂で…

■ 10:30 食数を決める

まずボムメイトのリーダーが申し送り事項をチェックしてその日の食数を決めます。

■ 11:00 盛り付け

調理済みの料理の盛り付けを始めます(写真下)。お弁当の蓋を開けた時、わ~っとまず目で楽しんでいただきたい♪心を込めて盛りつけていきます。苦手な食べ物のある人やあまりたくさん食べられない方の事など考慮に入れながら。



待合室での団らん (写真下)



お弁当へ盛り付け (写真上)

■ 11:45～ テーブルセッティング

テーブルクロスをかけ、ランチョンマット、箸置き、箸。時にはお花を飾る事もあります。

■ 12:00 お食事タイム

利用者さんを食堂へと案内します。お話をしながらお弁当、味噌汁、デザートを楽しみます。皆で一緒に食べるお食事は、とてもおいしい♪

みなさん、食堂へ移動

その他の活動

月に1回、素敵なピアノ伴奏にのせて歌を歌います。なつかしい歌、今人気のある歌。皆大きな声を出してのびのびと。歌声は分室いっぱいに響きます。皆、この日が好きです。

年に2回、小物を作る講習会もしています。雛人形、ハンカチで作る小袋、ランチョンマット、カード入れ…。あつという間に素敵な作品たちの出来上がり。七夕、クリスマス…。他にも、原田の森ギャラリーへ行ったりなどもしました。

(下の写真は、お話の会の様子)



■ 13:00～13:30 散会

さようなら。また来週。この後お出かけついでに別の場所へ行かれるお元気な方もいらっしゃいます。

■ ～14:00 片付け

代金を確認。その日の記録記入。器を洗い、そうじをして終了です。お疲れ様でした。



わいわい亭の



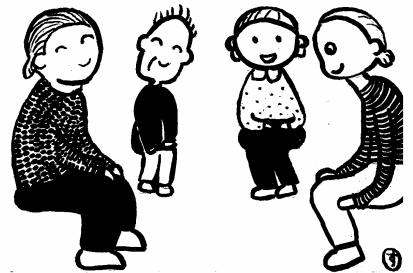
わいわい亭の常連さんは現在10名、
抱えていらっしゃるんですが、そんな中でも
私たちボランティアは、そんなみなさんから
気持ちに応えられるように、
過ぎて
文:村川奈津美(わいわい亭ボランティア)



いつもわいわい亭に
来ることを楽しみに
してくださっておら
れ、いち早く来てくだ
さいます。

メンバーで唯一の男
性。いつもにこにこし
ておられ、みなさんか
らモテモテです。

メンバーでは最高齢
ですが、それを感じさ
せないエネルギーを
お持ちです。



わいわい亭のムードメ
ーカー。いつもお元気
で、私たちも見習いた
いと思っています。

面倒見がよい方で、
ボランティアの私
たちにも大変よく
してくださいます。

常連さん紹介

やはりみなさん、どこかしら身体に不調は
元気なお顔を見せてくださいます。

逆に元気をもらいながら、
一緒にお話したり、笑ったりして
います。

イラスト:鈴木孝子(わいわい亭ボランティア)

とても穏やかな方
です。話していると、ボ
ランティアの私たち
の心まで和んでしま
す。

女性メンバー最年少。
「わいわい亭に来ると
元気になるわ」と来て
くださり、うれしい限
りです。



ご自身もボランティア
活動をしておられ、エ
ネルギッシュで活動的
です。

お花が大好き。おうち
でもお花を育てておら
れ、花の名前を教えて
いただいています。

いつも仲良しさんと連
れ立っておられ、その
姿をみると、なんだか
幸せな気持ちになりま
す。

地域の高齢者とともに 過ごす活動に参加して

高齢者会食グループ「わいわい亭」ボランティア座談会

わいわい亭のボランティア になったきっかけ

井上(瑛):分室でわいわいランチ^{*1}のボランティアをずっとしていました。その関係で、わいわい亭が始まった時から手伝うようになりました。

村川:今大学院1回生です。大学に入学してから、YWCAの夜回り準備会に参加していて、YWCAの他の活動にも興味を持ちました。もともと大学のボランティアサークルで、復興住宅でのふれあい喫茶の運営をしていました。大学院で高齢者のことをテーマに研究しており、現場を見ることができて、良かったと思います。

増田:わいわいランチのボランティアをしていたので、わいわい亭が分室でオープンして以来、ずっと参加しています。最初は利用者さんが少なかったのですよ。わいわい亭の歴史をずっと見てきました。

佐治:私も、わいわい亭の設立メンバーのひとりです。2001年4月に、旧会館から分室にいろんな活動が移りましたが、しばらくして、わいわいランチのお弁当の利用も兼ねて、わいわい亭を始めました。参加者がボランティアの数よりも少ない時期もありましたが、なんとかここまで続いて良かったなと思っています。

橋本:わいわいデイルーム^{*2}で分室に来ていましたが、わいわい亭でも歌を歌いたいから、来

てほしいと言われ、お手伝いするようになりました。

デイルームには発足当時から関わっています。来られなくなった人や、亡くなった人があり、人数も減っていますが、最初からの人がまだお元気で頑張っておられます。わいわい亭も新しい人はなかなか入りにくいですね。こちらにも参加させていただいて、それなりに楽しんでます。

桜井:ここに参加して6年ぐらいになります。義父と主人を一度に亡くして、うつ状態になりました。そんな時、神戸新聞にボランティア募集の記事が出ていたんです。すぐにYWCAに電話しました。若いときからボランティアがしたかったので、喜んでいました。ここで、良い人に巡り会って、幸せです。

鈴木:大学を出てからお勤めをしていて、ボランティアのことは何も知りませんでした。その後病気になり、家にいましたが、少し元気になったとき、たまたまYWCAの前を通りかかり、中に入ると、ボランティア募集のポスターが貼ってありました。当時ボランティア活動の担当スタッフがされていた寺内さんと会って、何か出来ないかと相談しました。当時は話すことが苦手でしたが、わいわいランチのボランティアに勇気を出して参加しました。

でも、配達の仕事などに参加するのに体力的にも少し無理が出てきました。しばらく休んでいましたが、「このままではいけない」「外に出なければいけない」と思って、ランチの配膳だけ手伝うようになりました。水曜日はランチが配達に出かけた後、わいわい亭の参加者が来られるので、自然とみなさんにお茶を入れ、待合室でお話するようになりました。少しお休みし

^{*1} 神戸YWCA地域活動の一つで、高齢者向け配食サービス活動。P.3、14を参照。

^{*2} 神戸YWCA地域活動の一つで、現在は介護予防者向けデイサービスも兼ねている。P.3、14～15を参照。

ていましたが、みんなが頑張っている姿をみて、また参加したいと思っています。

三浦:家族の介護で忙しくて、最初のころはお手伝いできませんでした。でも、落ち着いたので、5年ほど前から、毎月ボランティアに来ています。ここで、ボランティア仲間から元気をもらって続けています。私は2年くらい、参加者の中に、なかなか入っていきませんでした。みなさんはいかがですか。

利用者である高齢者の方との かかわりについて

桜井:私は、お年寄りとの関わりがありましたので、抵抗はなかったです。

増田:参加者が固定してきているので、新しい方が入りにくいですね。

橋本:いくつかのグループに分かれているようです。参加者同士、あまり、交流がなさそうですね。

佐治:参加者とボランティアの関係で、ボランティアとして気をつけていることは何ですか？

村川:とりあえず、相手の話を聞こうと思っています。話が盛り上がる中、そこに入れてないのに話をふったりします。でも、忙しいとなかなか出来ません。

三浦:待合室での仕事は、参加費を集めたり、話の相手をしたの、結構大変ですね。

佐治:待合室は良い交流の場になっていますね。

井上(瑛):私も昔、待合室でお話を聞いていましたが、村川さんで三代目ですね。以前はメンバーの岸本さん^{※3}、鈴木さんが担当していました。岸本さんは皆さんを和ませるのが上手ですね。

鈴木:私が前にお手伝いしていた頃と、現場は一見変わっていないのです。でも『わいわい通信』を読んで、お休みしている間にいろいろな事があったんだと知りました。村川さんのことも、通信を読んで初めて知りました。

増田:村川さんがいると、若い人がいるというだけで、お年寄りも和みますね。

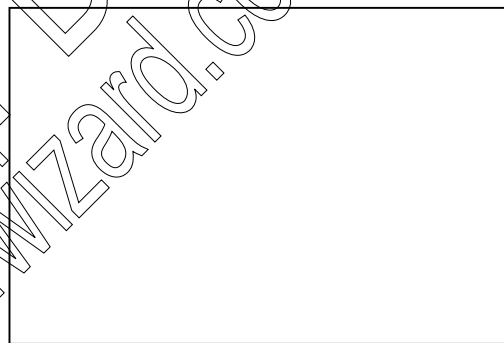
全員:若い人がいるのは、本当にいいですね。

村川:わいわい亭に来て本当に考えさせられたことがあるのですが…。復興住宅の喫茶は、学生ばかりで運営しているの、若者はめずらしくありません。ここでは若いというだけで驚かれ喜ばれました。岸本さんにひっぱってもらって、自然と場に入っていました。お年寄りは普段から若者に接する機会が無いのですね。そのことがよく分かりました。

井上(瑛):ちゃんと話を聞いてくれる若い人が家の中にいらっしやらないのでしょうか。村川さんが聞く方に徹してみなさんの話を引き出してあげるの、良いことだと思います。

桜井:村川さんと会えるだけでボランティアも嬉しいです。娘とも孫とも違う世代の人に会えるのはたのしみです。

佐治:参加者もボランティアにとっても異世代の交流があるのは良いと思います。



写真上は、わいわい亭で今年2月27日に行われた手づくり会の様子。この日は新聞紙でつくれる、ブローチづくり。真ん中で作業をしているのが橋本さん。写真下は、そのときのみなさんの作品。

※3 6年ほど前から活動に参加している、わいわい亭の男性ボランティア。

ボランティア同士のかかわり

橋本:村川さんが高齢者のことを専門にしたきっかけは何ですか？

村川:大学のサークルでの復興住宅のお茶会がきっかけです。高齢者のことを考えてみたいと思いました。わいわい亭に参加できて、良かったと思います。

佐治:わいわい亭が始まったとき毎週来ていました。初めてだったので、参加者のけがやボランティアのチームワークが心配でした。そのうちボランティア同士のコミュニケーションもとれるようになり、今までたくさんのボランティアが責任を持って関わって、長く続いているのがうれしいです。

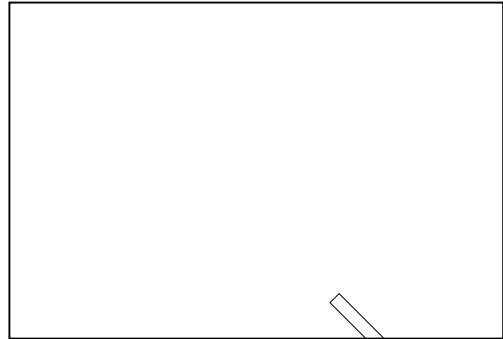
村川:ボランティア同士が刺激しあえているのが良いと思います。私がホームヘルパー2級の資格を取るきっかけは、井上(瑛)さんがヘルパーの資格を持っていて、参加者のOさんを車いすへ移乗するのを手伝う姿を見たからです。学生だけの活動をしていたら、そこまで考えがなかったと思います。

井上(瑛):ヘルパー経験があると、いざというときに慌てなくていいと思います。私自身も、ここでは高齢者と楽しく接することができて、気持ちりがほっとします。なにかをしてあげるといふのではなく、楽しむという気持ちが大切ですね。

佐治:ボランティアと参加者との関わりで、興味深かったことがあります。私は、なるべく敬語を使おうとしますが、くだけた感じで話しかけるボランティアもいて、それに最初はびっくりしましたが、今では逆にその人の持ち味を出しているのいいと思います。ボランティアそれぞれが、参加者と独自の関わり合いをしていますね。

三浦:ボランティアの人数が急に減ったときは、本当に心配しましたが、なんとか乗り越えてきましたね。

佐治:そこにニーズがあり、支える人がいたからこそ続けて来られたと思います。



写真上:わいわい亭の食事風景。分室にはテーブルが二つあり、それぞれ6~8人に分かれて座って食事をします。左手前が村川さん。

わいわい亭の現状と課題

増田:それにしても、ここに来られるお年寄りの方はお元気ですね。わいわい亭が終わった後も買い物やカラオケに行かれているみたいです。

佐治:でも参加者は高齢化しましたね。

井上(瑛):参加者の平均年齢は90才に近くなりました。Mさんは施設に入られましたね。一番元気だったFさんとMさんが亡くなられたのはびっくりしました。Mさんは前日まで仕事をされていたし、Fさんは旅行から帰ってきてすぐでした。

佐治:わいわい亭は、元気な人が来ているというイメージでしたが、みなさんそれなりにご事情を抱えて来られていますね。一期一会というか一回一回の出会いが大事なのだと身にしみて感じました。

桜井:Iさんは、親しかったMさんが亡くなられてから、急にお話が少なくなったように思います。以前はよく話されていました。かなりショックを受けられたのですね。

増田:参加者の高齢化が今の問題ですね。

佐治:高齢化によって参加者が減ってきていますが、その問題だけではなく、高齢化にどう対応していくか話し合ひましょう。みなさん、なにか気をつけていることや、困ったことはありますか。

三浦:以前に、一人の方が、食後気分が悪くなり、

救急車を呼んだことがありましたが、プログラム中の事故は心配です。何も起こらなければいいな…と、いつも思っています。

佐治:私たちの対応のしかたで、ご家族の方と対立することもありますね。まだ十分な関係は築けていませんしね。

増田:佐治さんは、何をする場合でも、安全対策に十分注意を払っていると感じます。

鈴木:もし事故が起こったら、わいわい亭をやめなくちゃいけなくなるからですね。

佐治:わいわい亭の参加者は、独り暮らしで、一人で来られている方が多いので、緊急事態の対策は、大切ですね。危機管理をしっかりしていきたいと思います。

村川:今までも、現場で問題が起きた時、それぞれが適切な対処をしてきました。ボランティアにいろんなタイプの人がいるのは、好ましいことだと思います。これからも、チームワーク良く、運営していきたいですね。

鈴木:迷惑をかけたらいけないという気持ちが、あるのだと思います。

佐治:最近、古くから参加されている方が、食事の座席を移動されましたね。あれは、前の座席ですと我慢しておられたのですね。他の参加者はどうですか。

井上(瑛):Yさんには、なるべく声をかけるようにしています。「おいしかったですか?」とか「全部めしあがりましたか?」とか、話をもっていくように心がけています。

増田:Yさんは、家に来ているヘルパーさんに、わいわい亭を勧められて来ているようです。いつも一番早く帰られますが、Yさんは、ここで楽しんでおられるようです。

佐治:わいわい亭は予約しなくても参加できるので、みなさんが気軽に参加できるというイメージがあるらしいです。それは良いことですし、大切にしたいですが、できれば継続的にひとつのお出かけ先として楽しみに来ていただけるような会にしていきたいですね。

社会で弱い立場に置かれる人々—高齢者

参加者：井上瑛子、桜井貴久子、佐治雅子、鈴木孝子、橋本静子、増田征子、三浦啓子、村川奈津美（計8名）
記録・構成：三浦啓子・山本かえ子

井上(瑛):一般的に、高齢者の方といつも良い関係でいるのは、むずかしいです。そのことは、みんな理解しておかなければいけない。われわれも、いずれ高齢者になるのですが…

佐治:高齢者は、やはり弱い立場だと思います。お世話してくれている人に、感謝をこしておこうと思ひ、言いたいことを我慢しているのです。

鈴木:病気の人の場合も同じことが言えます。重症のときは看護師さんに面倒な手のかかる患者だなどと思われなかな、「この患者のお仕事に当たると嫌だなあ」と思われたくないな、と思ったりします。

佐治:気を遣ったり、我慢していると、何かのときに本音が出ますね。高齢者の人とは、対等な関係ではないということですね。

村川:私もそう思います。大学のサークル活動の時も、こちらから「大丈夫ですか?」と聞かなければ、ご自分からはあまり言われません。

わいわい亭に参加して 井上序子 (わいわい亭ボランティア)

わいわい亭の食事時、よもやま話に花が咲きますが、大先輩の方々のご体験に基づく貴重なお話を伺いますと本当に良い人生勉強です。

ご苦労の多かった激動の世を生き、平和な日本を築かれた世代の皆様のお話を伺って、これから私はどのように生き、何をつたえることができるのか、と毎回楽しみに参加させていただいています。

わいわい亭の成り立ち

佐治雅子（わいわい亭）

わいわい亭が「開店」したのは、2001年の春でした。この年、神戸YWCAは慣れ親しんだ灘区上筒井通を離れ、中央区二宮町に拠点を移しました。そして、震災復興から展開してきた地域活動は、中央区坂口通の分室で行うことになりました。

分室開設当初は、「わいわいデイルーム」「わいわいランチ」「夜回り準備会」「ちやいやあらんど」が活動を行っていました。そして、わいわいランチでおいしい食事を作っているのだから、高齢者の方々に来てもらうプログラムをつくろう！と思いつき、わいわい亭の開店の運びとなったのです。

開店当初は、旧YWCA会館で行っていた会食グループの「おしんぼクラブ」の参加者が来てくれました。しかし、以前のプログラムとイメージが違ったのか、参加者は次第に減少し、一年後には2〜3名になってしまい、少数参加者の日々が続きました。

その頃の会話…

参加者：

「私たちのために準備してもらって悪いわ」

「来るのが申し訳ない」

ボランティア：

「いえいえ気にしないでください」

「ぜひ来てくださいね」

このように、参加者にご心配いただくほど不安な期間がありました。しかし、地域の方々が来店されるようになってから、口コミで少しずつ人数が増えてきました。

前ページまでの座談会にもあるように、高齢や病気などで参加者は徐々に減りつつあります。今年秋には、敬老パスが有料化になってしまったため、高齢者がさらに、わいわい亭も含む地域の会に気軽に出かけにくくなるのではないかと心配しています。けれども、わいわい亭はこれからも高齢者が気軽に立ち寄り、みんなで食事やおしゃべりを楽しめるよう、地域で「開店」し続けていきたいと思っています。



上記イラスト：わいわい亭のチラシに登場する、わいわい亭の看板犬。佐治さん作。

近況報告と参加者雑感

わいわいランチ

内田 ミヤ子

調理担当はYが『カフェテリア』をしていた時代からの仲間も多く、和気あいあいと楽しくやっています。その頃から数えるともう17年ぐらいになるかな。分室に移ってからはや7年が過ぎました。最近はずいぶん食数が増え、利用者さんからの御礼のお手紙などいただいた時はとても嬉しいです。

毎日9時開始、お弁当配達の出発時間に間に合わせようとあれこれ工夫をしながら忙しく動き回っています。曜日によっては配食と会食、あわせて50食前後を作ることもあるので、そういった日はワザイトが沸いてきます。

昨今の偽装肉、毒入り餃子と、食の安全を脅かす事件が相次ぐ中、食材はすべて原材料を吟味して使用し、安全でまた少しでも安価なものをと月2回買出しに出かけています。出来るだけ冷蔵庫の食材の回転をよくして、無駄を省くよう努力をしつつ、「あちらのお店の油」「こちらのお店の乾物」と走り回っています。このところ何でも高くなっていて困っています…。

抵抗力の弱いお年寄りのための献立や、お口に合う味付けなど、頑張っています。

ランチニュース

弁当箱を洗浄する2階の洗い場に、8月初旬エアコンが取り付けられました。“今年の猛暑の中での洗浄作業では熱中症になりかねない”と大家さん（渡辺さん）のご配慮でした。おかげさまでずいぶん楽に仕事ができるようになり、みんなで感謝しています。

わいわいテイルーム

川上 和恵

今年度は、メンバーも何名か増え賑やかになりました。新しい方達を迎え毎回顔を合わせていくうちにお互いに親しみも湧き、仲間意識も強くなってきたように感じます。今では和気あいあいとした雰囲気の中で、みなさんおしゃべりもはずみ、生き生きと過ごされています。デイルームがみなさんにとって仲間と共に過ごせる楽しくて元気になる場所であり、週に一度の楽しいクラブ活動のような感覚で来て頂けたらいいなと思っています。

平成18年度、介護保険制度の改正が行われ、高齢者福祉の新たな方向が示されました。地域密着型サービスや地域包括支援センターな

どの創設により予防重視型システムへの取り組みが始まっています。地域の中で生き生きと元気に自分らしく過ごせるよう、今の生活をすこしでも長く続けられるよう、介護予防として援助するサービスがこれからの高齢者ケアに於いて求められることかも知れません。また、グループの中においても個への関わり、一人一人のニーズに基づく決め細やかなサービスも必要になってくると思います。(なかなか現実には難しいのですが…)

ここ、わいわいデイルームもこれからは年齢層も若くなっていくと思います。今後の援助の仕方も考えていかなければならないのかも知れません。

弓の木歌の集い

橋本 静子

例年、12月・1月は休会なので、2月久しぶりに皆さんとお顔を合わせるのが楽しみにしていた矢先、メンバーだった方が亡くなられて、当日はお通夜と重なるので「歌の集い」は取り止めてほしいと電話がありました。はじめ、大分前からお悪かった御主人かと思いましたが奥様の方が亡くなられたとの事です。いつも落ち着いて穏やかな物言いをされていた方でしたが、最近では会への出席を望みながらも長時間座っているのがつらいとの事で御欠席でした。

明けて3月、今度は此の前その電話をかけて下さった御当人の訃報が知らされました。震災後の仮設住宅時代から市住の方達を支え、YWCA とのコネもつけて下さった方で、多くの

病気を抱えながらいつも信念をもって活動を続けて来られた方でした。この集いを始めてから10年近くが経過しましたが、その間共に歌い語らった何人の方をお見送りした事でしょう。

高齢者の交わりでは当然の事かもしれませんが、戦前、戦中、戦後を共に生きて来た世代の方が段々少なくなっていくのは本当に寂しい思いがいたします。「歌の集い」もこのところ参加者が3名という日もあってこれを機会にそのまま消滅して行くのではないかと心細くなっておりましたところ、「3月はいつも通りして欲しい」との事で第3水曜日 YWCA から2名が出向きました。御遺族の方も共に新しい参加者も加わって心機一転、たっぷり2時間歌い語り合いました。その後5回を経て、嬉しい事に参加者は増え、7月は男性2名を含む7名と YWCA からの2名で計9名、最近にない盛況でした。

一人一人が様々な悲しみ、苦悩を背負いながらそれでも日々の生活を一步一步進めて行く……「歌の集い」がそのためのわずかな憩い、励ましになればと願っております。



ちゃいやあらんど

佐藤 香織

来月、毎年恒例のハロウィンパーティーがある。今年は10月18日(土)。子ども達は大好きなヒーローやプリンセスに変身し、お菓子狩りに出かける。帰ってくるとカボチャを使った手作りおやつを食べてひと休み。その後はみんなで楽しめるゲームでひと盛り上がり。そして夕方前、ヒーローやプリンセスは袋いっぱいになったお菓子を持って笑顔で手をふり帰っていく。

これが、「ちゃいやあらんど」のハロウィンパーティー。いつもたくさんの方々にお手伝い頂き、参加された親子からは「楽しかった!」の言葉を頂く。スタッフは「今年もやって良かったね～」と一日を振り返る。

このハロウィンパーティー、恒例イベントとはいえ一年に一回なので、毎年どうやって準備したの思い出しながら進めていく。「コレってどこで買ったんやっただけ?」「アレどこに片付けた?」「なんで記録残してないんやろ～」これも毎年恒例である…。

ほんとにこの時期は一番左脳を使う。熱が出そうになる、なんて…言い過ぎた。そんな私を「何とかなるわよ」「大丈夫、大丈夫」と支え、おだててくれる(?)ボランティアメンバーがいるから今年も頑張れるかな。

ハロウィン前後に「ちゃいやあらんど」のボランティアメンバーを見かけたら、こんな裏側を思い出してみて下さい。



そらとぶうさぎ

魚住 香奈

「そらとぶうさぎ」通称“そらうさ”はしようがいのある子どもたちとその家族と月に一度集まり室内で遊んだり外へお出掛けしたりという活動を行っています。

遊びの内容は、家族との会話の中でプランが出ることも多く、今子どもたちが興味のあることやその季節にあった行事など様々です。室内遊びではホットケーキや白玉、かき氷、うどん作りなどお料理にチャレンジしたり、絵を描いたり、節分の豆まき、七夕の短冊作りなどなど多岐に渡っています。またお出かけでは近くの公園や車に乗ってバーベキューをしたりしました。4月には電車で遠出をしました。公共の乗り物に乗っての長距離のお出かけでしたが、誰も迷子になることなく無事に成功しました。

子どもたちの成長に伴い、少しずつ活動の場を広げようとしています。また、これからは子どもたちとの関わりの中で子供たち自身が行きたいところややりたいことを見つけて行けたらいいなあと考えている次第です。

私は、昨年の1月から活動に参加しています。個人的に嬉しかったことは、はじめは子

どもたちが全く話しかけてくれなかったのが徐々に子どもたちの方からも話しかけてくれるようになったことです。さらにご家族の方とも毎月顔を合わせるうちに子どもたちのお話だけではなくご家族自身のお話や私たちボランティアスタッフの個人的なお話もできるようになり、それも活動の楽しみの一つになっています。

これからも「みんなが月に一度のそらうさを楽しみに集まる」そんな活動をしていきたいです。

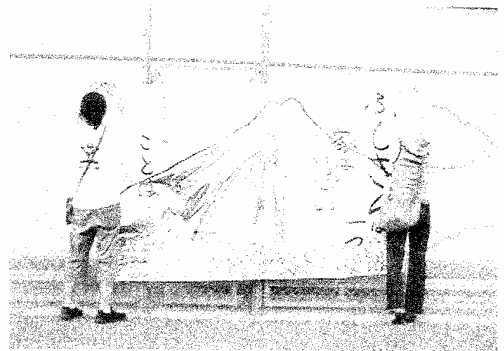
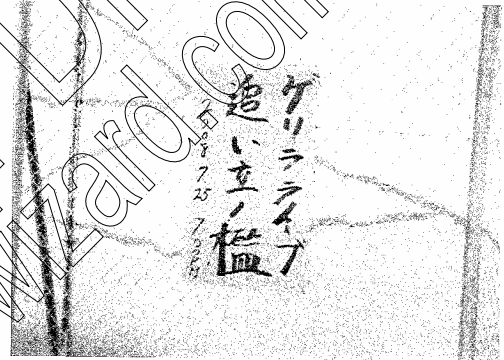
夜回り準備会 清水 公明

ここでは夜回り準備会の活動報告というより個人的所感を述べさせていただこうと思います。この町に住んで25年（ギャラリー2001（後にアトリエ2001）を阪急高架下に開設して16年になります。主に若い人の芸術活動の場です。100m程西に行くと更生センターがあります。

夜回りの活動に参加して8ヶ月。きっかけは、JR灘駅前に高層マンションが建ち、その影で更生センター前の野宿するおじさん達の姿が消え、目立たない色の金網が檻のように設置されても、それが追い立てであることすら気付かなかった自身を恥ずかしく感じたことからです。常々、若いアートの仲間「君らは何で怒らへんのや！」と問いかけていた私自身が、自分の足元で起っている事に気付かなかったということです。

夜回り準備会の活動に参加すること（夜回り、夜中回り、昼回り）でいろいろな現場を見て、当事者の話を聞き、準備会での読書会、合宿、ミーティング、また外部の交流会への参加で多くの事を知ることができました。特に準備会の若い人達の真摯な取り組みには、自分の中で眠っていた何かを自覚めさせてもらったように思います。

今後の私自身の課題は、出来るだけ現場に参加する事と、その事で得た何かを自らのフィールド（アートの世界）で表現する事——見えないモノを形（言葉）にする事です。その試みの一つが下の写真です。



写真上・下:2008年7月25日、神戸市更生センター前で行われたゲリラライブパフォーマンス「追い立ての檻」の様子。
(清水公明さん提供)

あの人に会いたい！

⑥ そらとぶうさぎ

松本光代さん

ここでは毎号ひとり、神戸 YWCA 地域活動で活躍している会員・会友・ボランティアを紹介していきます。

●松本さんの YWCA での活動分野をかんたんにご紹介ください。

3つありまして。1つは、「そらとぶうさぎ」(略称そらうさ)。しょうがいを持つ子どもとその家族といっしょに過ごす活動ですね。分室で行っています。2つめは平和・基盤委員会。平和に関するイベントをしたり、考えたりしています。3つめはイベント委員会に所属。芸術から講演など様々なジャンルのイベントを企画し、開催しています。

●その活動の中で最近の印象的なことは？

「そらうさ」では、三人のしょうがいを持つ子どもも大きくなっていろいろなことができるようになってきた、一人ひとりの違いがはっきりしてきて、それぞれの成長や彼らに添う家族の歩みがすごいとだと感じています。また、「そらうさ」は、ずっとボランティア不足でした。そのために実施が危ぶまれたこともあったのですが、いろいろな出会いや活動のつながりの中で「そらうさ」のボランティアをする人が出てきて、最近では定着してきたかなと思います。

人とのつながりが活動を支えたり、広がりやを創っていくなあと感じるのは平和・基盤委員会の活動です。「FMわいわい」では平和・基盤の宣伝などもさせていただいているのですが、イベントのことも話していいよということで、平和のことから芸術・文化の事へと情報が広がっていく。「FMわいわい」さんもいろんな部署や視野があり、他の担当の人とも知り合えてつながりもできていくなあと感じています。

●Yの活動をはじめたきっかけは？

ぜったい「はめられ」たんだと思っています。「そらうさ」のリーダーだった友人が子どもを出産するので産育休がほしい、1年限定で助けてほしい、あなたの仕事にもプラスになるからとの大きな餌につられて、ボランティアをはじめました。1年限定のはずが、ずるずると…6年かなあ。決して楽しいことばかりではなかったのですが。

続けられたのは、人とのつながりですかねえ。「Yの地域活動グループ運営のためには会員が3人以上ないと」と勧められてYの会員になり、会員なら、と運営にも誘われ、

地域活動委員会メンバーになりました。その後、平和・基盤の活動にも係わり、次は幹部委員！を逃れられなくなり…（今や本当に若い会員の活動家モデルとなっている松本さんであります）。これを私はY方式、「恐怖の連鎖」と呼んでいます。

●仕事との係わりは？

人と関わる仕事なので、活動を進める上でのディスカッションやシェアリングなどが仕事にも役立っていると思います。感謝しています。Yのボランティア活動は私たちの創意工夫を活かすことができやすい。仕事ではどうしても「費用対効果」の評価が伴うけれど、ボランティアは頑張りが評価されるので、私自身がリフレッシュできます。

●Yの活動でしたいこと、夢は？

「そらうさ」では、三家族とボランティアでどこかに（ディズニーランドという声が多いですが）お泊まりで出かけるのが夢ですね。慣れないボランティアに子どもを任せる家族の恐怖？というか冒険的なところを乗り越えて、何とかみんなで出来たよねという思いが持てるといいですね。これまで「そらうさ」の活動は、「ここにきたい」という三家族の気持ちを大切にやってきました。ボランティアは親でもない、療育の先生でもない「第3の大人」のスタンスで関わっていきたい。子ども達が思春期を抜け出る頃まで、いっしょに過ごせるといいなあと思っています。

平和・基盤委員会では、小さいことを続けていきたいと思っています。少人数でも集まって話し合うこと、学習しあうこと。いろんな人が発言できる、それを聞きにくる人がいる、集まれる場所であることを続けたいです。イベント委員会は資金をつくるのが目標なので、いろんな視野を持って関わるといいなあと思います。

●Yの活動を担っているみなさんにメッセージを。

多くの方が先輩なので戸惑っています。自発的な活動なので、しんどくなることもあります。尊敬すべき先輩方が「あなたのやりたいことをやりたいだけ、やりなさい」「細く長くやりなさい」とのアドバイスをくださいます。「活動をやめないでね」と続けるコツを教えてください。続けることで見えてくるものがあるのでしょうかね。

ゆっくり休んでいたい時もあり、走り出したい時もあり。Yの活動は、自分のバイタリティにあわせて大きいものにも、小さくもできるように思います。

インタビュアー：井上 みち子



ありがとうございました!!

地域活動委員会へのご寄付等ご協力下さった方々

(2008年3月1日から9月20日まで、順不同・敬称略)

重野 妙実	いなだ 多恵子	中田 作成	
牧野 哲	本城 智子	三島 孝子	藤本 俱子
栗田 道代	松本 博子	平芳 幸子	木村 正樹
平和と民主主義を目指す全国交歓会		王子印刷工業	
羽下 大信	川関 敏恵	西島 明子	

皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

*万が一お名前がもれています場合にはご一報いただけましたら幸いです。

今後も私どもの活動にご支援・ご協力いただけると嬉しいです。

『わいわい通信』へのご意見、ご感想などお寄せいただけると幸いです。

お知らせ

各グループより

- | | |
|-----------------------|----------|
| ・ トーンチャイム貸し出します。(応相談) | ちやいやあらんど |
| ・ お米を募集しています。 | 夜回り準備会 |
| ・ 収納スペースを探しています。 | 夜回り準備会 |



発行：神戸YWCA 地域活動委員会

住所：〒651-0093

神戸市中央区二宮町 1-12-10

電話：078-231-6201 (本館)

078-221-5111 (分室)

FAX：078-231-6692

URL：<http://www.kobe.ywca.or.jp/kobe/>

E-mail：office@kobe.ywca.or.jp

郵便振替口座

番号：01100-0-10298

名義：神戸基督教女子青年会